



西郷南洲翁揮毫

二 挨拶

理事長 吉永龍暘

新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで良いお正月をお迎
の事とお喜び申し上げます。

令和三年度も亦、コロナ禍故に、種々行事が中止や延期に成り、会員の皆
様にも日程の調製等でご面倒をおかけ致しました。そのような中において六
月、当会の温習会を無事に開催することが出来ました。参加者全員でクラ
ターなど起きぬように、最善を尽くしたつもりではございますが、ご家族様
のご理解のもとと募集出来たことと、改めて感謝申し上げます。各自、何かを
感じ、学びを得てくれる活躍の場を設けることが出来たことも、指導者とし
て、喜びとなりました。ありがとうございます。

さて、輝かしい会の実績としてご報告申し上げます。当流派・日本吟道学
院の**全国吟詠コンクール東京地区予選会**に於いて、本選に挑むことが出来る
十名の枠・東京地区の推薦者のうちに、南洲吟道会から四名が選ばれました。
岩井さん・茂呂さん・山田さん・米田さんです。令和四年三月二十五日に決
選会が開催されますので応援をよろしくお願い致します。壮心大会も会代表
として、大勢参加頂き、当会の面目が立ち感謝。日本コロムビア**全国吟詠コ
ンクール全国大会**に東京地区代表として、中野サンプラザに米田さんが出場
致しました。結果は惜しくも入賞を逃しましたが、何かをつかんだようです！
今後の活躍に生かせるように期待致します。国分寺会も**国分寺市吟詠剣
詩舞連盟**内で非常に活躍頂いており、会の誇りです。

令和四年度温習会は九月二十四日(土)野方区民ホールで開催予定です。
目標にしてお備えください。

龍奏は喪中となり、新年のご挨拶は控えさせていただきます。皆様、くれぐれ
もご自愛下さいますように。また元気にお会いできる日を楽しみに致して居
ります。

会報
発行日
編集人
発行人
発行所
団体名

「敬天愛人」第五十五号
令和四年一月十五日
南洲吟道会 広報局長 手塚憲龍
理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏
〒一六五-〇〇三五 東京都中野区白鷺二-三四-一五
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会
電話・FAX・〇三-三三三-〇一七〇〇九

コロナ禍での温習会を終えて

事業局 湊山龍冴

去る六月三十日、令和三年度の温習会が野方区民ホールにおいて開催され
ました。五月三日の予定がコロナ緊急事態宣言のため延期されたものです。
大きな不安を抱えての実施でしたので充分な対策をとり、参加者全員がしつ
かりとルールを守って行われたことは言うまでもありません。

参加者は三十一名、当日も含めて欠席者は七名で、少々寂しいことではあ
りましたが、お一人お一人の前向きな吟詠に心打たれました。教場も殆どお
休み状態でしたから、皆さん自主練習での舞台だったと思います。観客もま
ばら、拍手もちらほら、でしたが、久しぶりで先生と会員の皆さんと一緒
できましたことが大きな喜びでしたし、コロナには負けられない思いが強く
致しました。

絶句・和歌・新体詩・俳句・五行詩、そして詩舞・居合・飛び入り吟詠あ
り・・・と、あつと言う間の二時間でしたが、野方区民ホールの広い会場
で、細かい所まで注意をしながら、密を避けての舞台でした。そのための準
備には時間をかけ、無事に終えることが出来ましたことは、皆さんの努力と
協力のほかありません。

来年の温習会は六月十二日(日) (原稿入稿後に総本部の行事と重なるこ
とが判明、九月二十四日(土)に変更となりました。)に開催される予定で
す。会員全員の参加を目標にお互いの健康を願い、又元気でお目にかかれま
すことを楽しみに頑張りましょう。有難うございました。(十月十日記)

会員の皆様におかれましては健康に留意され、来たるべき九月二十四
日(土)野方区民ホールでの温習会には欠けることなく、奮ってのご参
加をお待ちしております。(広報局)

総本部・本部だより

本会令和三年度温習会

令和三年六月三十日(水) 十三時〜 野方区民ホール
参加者(出吟順) は次の方々でした。ご苦勞さまでした。

吉永龍陽	安齊治洲	米田梢水	春山美城	野澤純城	岩田幸城	吉澤強祥
佐藤千祥	茂呂真祥	手塚憲祥	戸田進龍	笠木照龍	小室慶龍	中川晋吟
早乙女恵龍	吉沢麗龍	猪浦雅龍	齋藤優龍	稲葉龍誠	山田龍璽	大塚龍優
赤池龍徳	湊山龍河	児玉龍智	安永龍珀	萩野進龍	菊田龍瑞	長友龍瑤
篠 龍叡	吉永龍奏	見学 平松龍宝				
欠席者	北原義城	岩本美城	橋本永祥	鈴木永龍	藤田龍香	永田龍游
横山龍治						

本会秋季昇段審査結果発表

三段 中川晋洲	三段 秋山政洲	中伝 安齊治水	七段 春山美城
皆伝 岩田幸祥	教授 茂呂真龍		

以上の方々が合格されました。ご活躍をお祈り申し上げます。

令和三年度日本吟道全国吟詠コンクール東京地区予選会

令和三年十一月二十日(土) 十時〜仲宿地域センター

次の方々挑戦されました。

中川晋弥	米田こず絵	安齊治男	茂呂 肇	山田恵美子	吉澤 強
猪浦雅之	野澤純子	岩井ミイ子	欠席 藤田幸		

入賞者の方々です。

〔漢詩・六段以下の部〕 米田こず絵「早に白帝城を発す」

〔漢詩・奥伝以上の部〕 茂呂 肇「大楠公」山田恵美子「常盤

孤を抱くの図」

〔和歌・短歌の部〕 岩井ミイ子「心なき」

合格者十名中、南洲吟道会は四名合格され、東京地区代表者
に選ばれました。決選は令和四年三月二十五日に開催されます。
ご声援をお願い致します。特に九十二歳の岩井さんは年寄りの
中でなく若い人の中で頑張りたいと、大変な努力でした。敬意
を表したく思います。皆様おめでとございます。決選の表彰
を願います。

第六回日本吟道 東京地区壮心大会

令和三年十二月三日(金) 十時三十分〜江戸川区小松川区民ホール
参加者(出吟順) 山田龍璽 春山美城 岩田幸城 西谷龍邦 猪浦雅龍
吉沢強祥 安齊治洲 欠席 茂呂真龍

日本コロムビア

全国吟詠コンクール決選会

令和三年十二月五日(日) 午前九時〜

中野サンプラザ大ホール

詩吟三田教場の米田こず絵さんが東京地区代表に選ばれ、出場しました。



吉永鶴奏琵琶の会【時分の花】

令和三年十二月十九日(日) 青山鎮仙会

千鳥ヶ淵戦没者墓苑 奉誦

令和三年十月十八日(月) 十三時〜千鳥ヶ淵戦没者墓苑

吉永会長が秋篠宮両殿下の基、昭和天皇御製「くにとのため」を奉誦致しました。

国分寺南洲吟道会会長に猪浦雅龍氏就任

平松龍宝先生は永年にわたり国分寺南洲吟道会を全身で育て上げましたが、病氣療養の為、この度会長を退き顧問に就任され、後任に猪浦雅龍氏が、令和三年四月より会長に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。御体調復帰の際は又お戻りください。

吉永会長 広島大学森戸国際高等教育学院長より 客員研究員の委嘱を受く

令和三年十月一日広島大学森戸国際高等教育学院長佐藤利行先生より、吉永会長は広島大学森戸国際高等教育学院客員研究員に委嘱されました。大変な名誉です。特に和文文化についてでした。

令和四年 行事予定

新春賀詞交歓会 一月八日(土) 日本吟道学院ホール

令和三年度本会理事会 一月九日(日) 十時四十五分

東京地区一般講習会 二月十一日(金・祝)十三時〜 小松川区民館

講師 鷺津龍蒼・古田龍優先生

内容 楽しもう、いろいろな俳句吟詠 吟詠組曲を作り、上演する楽しみ

南関東指導者育成推進講習会 二月二十四日(木)十二時四十五分〜小松川区民館

講師 林 盛神・鷺津龍蒼先生 内容 範典九巻の指導法

日本吟道青少年全国大会&壮心の集い 午前

令和三年度日本吟道全国吟詠コンクール決選大会 午後

三月二十五日(金) かつしかシンフォニーヒルズ

五行歌吟詠集制作記念発表会 三月三十日(水) タワーホール船堀

春季昇段審査会予定 四月十七日(日) 午前十時三十分 白鷺高齢者会館

本会総会 六月五日(日) 白鷺高齢者会館

第七十二回日本吟道全国大会 六月二十一日(火) 江戸川区総合文化センター

第十七回 鶴場の会 七月七日(木) なかの芸能小劇場

日本吟道学院夏季吟道大学講座八月二十四日(水)・二十五日(木) タワーホール船堀

本会夏季温習会 九月二十四日(土) 野方区民ホール

秋季昇段審査会予定 十月九日(日) 午前十時三十分 白鷺高齢者会館

令和四年度本会理事会 十二月二十一日(水) 白鷺高齢者会館

吉永鶴奏 第三回「時分の花」 十二月十八日(日) 青山鉄仙会

教場だより

再スタートして十五年

八王子会々長 横山龍治

東京の西の果て、高尾と西八王子の中間、線路脇にある八王子東浅川保健福祉センター4Fの一室が私共の教室です。教室の窓越しに、甲州街道の銀杏並木を眺めながらの吟声です。

八王子会の発足は三十四年前、平成元年一月です。会長であった橋本先生(故)は、今は亡き洲神先生と同じく、陸軍幼年学校・防衛庁の出身で、洲神先生に師事して、相思相愛の仲でした。また、先生が自衛隊吟詠部の講師にお願いしたのが、丁度その時、全国コンクール優勝、日本一に選ばれた、若き日の龍陽先生でした。このように会の発足にあたってはお二人の先生との関係が大変深く、お世話になっております。

小生は平成七年に入会、続いて山田恵美子(龍瓔)さんが入会しており、ほぼ一年後に白鷺教場に転籍しました。当時のメンバーには防衛庁関係の人が多くてベテラン揃いでした。南洲吟道会の中では大きな顔をして、羽振りもよく、いわば八王子会の全盛期であったと聞いております。

次第に先輩達は高齢や病など、それぞれの事情で退会が続いておりましたが、先生も突然の病に倒れられて、遂に宝方(故)、井上(退会)両氏と小生三人だけとなってしまい、一時は解散かという大ピンチでした。なんとか存続しなければと八王子公報に「詩吟を楽しむ会」として募集したところ、幸運にもなんと七名の応募があったの



45周年出吟の面々

です。(前にも、後にも、この時だけ、なんでしょう、不思議でした。)平成十九年四月のことです。今迄と一変して、新入初心者ばかりと、小生八名で再スタートしたのです。

指導者とは名ばかりの小生は、松本先生(故)に三年、長友先生に三年、洲神先生に七年、現在は龍陽先生にご指導いただいております。各先生方の教えをもとに教室を務めております。

早いものです。再スタートして十五年になります。教室は月二回、第一・第三水曜日、正午から三時迄。

残念ながら教室は長らく中断され、初吟会や暑気払いなどカラオケ店での楽しみも中止させられました。

第一の教室は自宅にあり、復習・予習をしっかり行い、自分なりに工夫した吟を、先生の前で、また皆さんの前で発表する神聖な場が第二の教室であると、常々思っておるのですが、如何でしょう。

全世界を混乱に落とし入れているコロナの悪戯(いたずら)はあまりにもひどすぎる、いい加減にしてほしい。そろそろ地球から宇宙の彼方に一点残らず舞去ってほしいものです。

ほぼ二年間続いたコロナ騒動もようやく下火となり、緊急事態宣言が解除(十月三十日)されました。しかし、決して油断はなりません。再びバウンドが、第六波が来るのか、先行きは不透明です。

コロナが去った暁に、そがれた気分を一新して、マスクなしで吟ずる日の到来を願ってやみません。

「憂きことのなほこの上につもれかし かぎりある身の 力ためさん」 山中鹿介
(只今の心境です。)
(令和三年十月三十日 記)

私の願い

国分寺会 平松龍宝

南洲吟道会に入門して二十八年、吟界では、まだまだひよっ子だが、この時から私の人生が始まった様な気がする。単純な私にとって、詩吟との出会いは衝撃的で、私の為には有るのではと思う程、のめり込んでしまい、主人と共に突っ走って来た。

この間、二人共、死に至る病にかかりながらも、一度たりとも、もう駄目だと思わず、続けて来れたのは一体何だったのだろうか。

コロナ禍から一変、私自身の身体がぼろぼろになり、気力も何も失ってしまった。揚句の果て、相棒の主人に先立たれてしまい、私は何の為に生きているのか。只々、息を吸っているだけ。それなのに悲しくなると、詩文が頭をよぎり、詩吟への思いが……。稽古は、会場を探し乍らも、お弟子さん達に励まされ、続ける事が出来た。

時々、体調をくずすので、猪浦雅龍さんに助けて頂き、調子の良い時は迷惑な話だが、お邪魔虫と洒落込んでいる。

世間では、ここ数十ヶ月、室内での稽古事は皆無に等しく、情勢を伺い乍ら、会の存続を必死になって考えなければならなかった。

そんな折、昇段審査、温習会と前向きに取り組んでいる会員方の意欲、協力に頭の下がる思いで、会場に向けタクシーを飛ばしていた。

規模は小さかったけれど、持っている力を出し切り、思う様に行かなかったかも知れないけれど、心意気は完全に伝わり、素晴らしい会となっていた。4

会員の為にも、自分の為にもと、十一月から稽古に來れなかった人達に少人数なら自宅で教え始めた。自分の身体がいつまで耐え得るか判らないが悔いのない人生を送りたい。南洲吟道会の発展を祈り、願いつつ。

会員だより

温習会で日頃の成果を!

鷲宮教場 大塚優龍

寒さが益し、庭の千両の美が色づき、小粒ながら美しいです。コロナ禍も減少傾向になりつつではありますが、皆々さま感染対策の基本を忘れずに励行いたしました。

そのような中、理事長は来年の温習会が行われるよう、令和四年六月十二日(日)、野方区民ホールを押さえられました。しかし残念ながら日本吟道

学院の総会と重なり日程変更を余儀なくされ、九月二十四日（土）となりました。

まだまだ先と思つて安心してますと、ウワーツ、到来です。昨年はコロナ禍の最中の為か、出場者が少なく感じました。今回は多数の出吟者で舞台をにぎやかに致しましょう！ さあー練習を重ね、先生のご注意を耳をダンボにして、心の籠つた温習会を目指したいと思います。ご協力を！

吟詠が主ですが、その他、舞台に立った時の礼の仕方・詠い出す迄のアガリを止める心の準備・呼吸・マイクの立ち位置など、バチツと決めたいと、いつも思っているのですが、中々上手にできません。先回はハンドマイクを使いましたが、慣れていない為、マイクを下げてしまい、失敗しました。

来年の温習会も、他教場の方々の吟も拝聴でき、素晴らしい、楽しい会となりますことを、今から期待しています。

会員一同、心一つにしてより良い発表会となりますことを願わずにはいられません。

皆さん！ファイト！！

詩吟にふれて学んだこと

国分寺会 春山美城

私が詩吟に出会ったのは、主人が他界して三年後平成二十六年、友人の桑原祥美さんに誘われ、岩田幸枝さんの紹介で、平松龍宝先生のお宅にお伺いして、初めて先生にお目にかかりました。

毎週水曜日午後、大体、桑原さんと二人、吉祥寺と三鷹から国分寺まで休むことなく通いました。最初五人か六人でした。詩吟の教本十巻を買い、先生の所において、その都度録音をしました。とにかく声を大きく出すことを教わりました。最初の昇段試験の時、岩田先輩からお鷹の道公園のベンチで習ったことが印象的です。先生の教室は、水木金とあり、木曜は男性が多く、金曜午前中はベテランの方々に、初めて皆さんとお会いしたのは、中野白鷺会館でした。皆さん気持ちの良い先輩方で今も変わらず集まると温かい雰囲気

気です。平松先生のお人柄もあり、和気あいあいで、会の後、荻窪駅のビル喫茶店に入り、楽しい時間を過ごしました。

詩吟は母が晩年習っていて、孫の結婚式に吟じました。母は音痴でしたが、詩吟は大丈夫なのだと思えました。

常に桑原さんという友がいたから二人で通うことが出来、彼女が亡くなつて五年、皆様と西国分寺の練習場で、平松先生、猪浦先生を中心にコロナ禍の中でも、月二回出掛けることができるのはとても嬉しいです。これからも先輩、仲間の人達と共に精進したいと思います。

編集後記

会員の皆様、明けましておめでとうございます。今年も又、良きにつけ、悪しきにつけ、昨年同様にコロナに振り回されそうです。新たなオミクロン株に脅かされる一年が始まりました。二〇二二年の干支は「壬寅（みずのえ・とら）」です。果たしてどんな年になるのでしょうか。陰陽五行説によると「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味で、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年だそうです。

コロナ禍の向こうの明るい春を信じて、感染予防にあい努め、稽古に励み、来るべき温習会には元気な姿で全員が一堂に集えるようにしたいものです。南洲吟道会結束ここにあり。

今年も会報発刊に何卒、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

（十二月二十日記・広報局）

広報局長 手塚憲龍 記録部長 稲葉龍誠
広報部長 萩野進龍 編集部長 曾根龍富
HP担当 菊地務